

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

すべての教科で全国平均(標準偏差値100)を上回る。

3.指標に向けての取組

○基礎基本的な知識・技能の定着は概ね達成できているが、学習した知識と日常生活との関連(活用・応用)をはかることが苦手であることが分析できる。毎日の授業で日常生活との関連を意識した学習の展開を図る必要性があり、以下がその取組みの具体策である。

・生徒の苦手な問題傾向の分析結果を職員全体で共有すると共に課題に対して、全教科横断的な取組みを展開する。

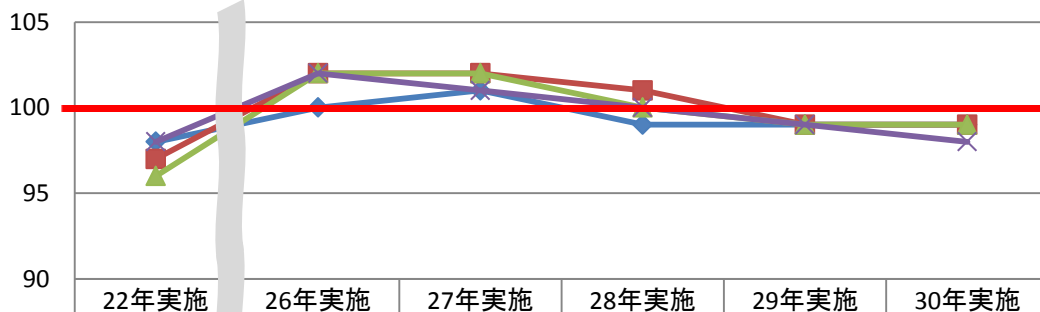
・さらなる家庭学習の充実を図るために、個に対応した宿題の取組みを強化し推進する。

・授業アンケート(生徒による評価)の結果をすばやく教師の授業改善に生かしていく。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語A	国語B	数学A	数学B
本校	99	99	99	98
嘉麻市	98	98	97	96
全国	100	100	100	100

推移



◆ 国語A	98	100	101	99	99	99
■ 国語B	97	102	102	101	99	99
▲ 数学A	96	102	102	100	99	99
✕ 数学B	98	102	101	100	99	98

5.各学校における分析

平成30年度のテスト結果は、国語・数学ともにすべての結果で短期指標の全国の標準偏差値(100)を上回ることができなかった。

分析要因として、

・国語・数学ともにA問題(基礎的内容)は、定着に少し課題があり、B問題(活用・応用)では大きく課題が見られる。

→ 教師側の授業での反復学習が足りない。また、定期テスト等で(活用力・応用力)を問う問題を工夫する等積極的に出題していない。

・国語・数学ともに特定の問題に課題が見られる。

→ 国語では「長文」等、数学では「関数」等の問題を授業や宿題で重点的に補充・補完する学習活動が足りない。

・基本的な知識を問う問題でも思考・原理に基づく理解がなく、身につけていない。

→ 単に基本的な学習事項を暗記させるのではなく、筋道を立てて覚えるなどの丁寧な授業展開が必要である。

以上の点があげられる。

6.各学校における今後の取組

短期・中期指標に向けて、学校目標の具現化を目指した取り組みから「自らの学ぶ意欲の向上と学力の向上」を目指す。また、昨年同様に基礎・基本的な知識、技能の習得から思考力・判断力・表現力のさらなる育成を図る。

そのために各教科等において、基礎・基本的な内容の反復学習を実施し、言語活動を充実させる授業改善を進めると共に教科横断的な学習内容を強化する。

また、学力テストの分析による3つの課題「国語・数学のB問題ができていない」「日常生活に関連づけて考える問題ができていない」「基本的な知識を問う問題でも思考・原理に基づく理解がなく、身につけていない」等の課題に対して焦点化・重点化した問題を授業や定期テスト、週末課題として補完する取り組みを展開する。

家庭学習の時間を引き続き1・2年生90分間、3年生120分以上と設定して、9割以上の生徒が目標達成するように取り組んでいく。また、週末の学習時間の増加を目指す。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

〔嘉麻市学力向上推進プランに基づき、学力向上検証改善委員会を核として学力向上具体策の浸透・徹底を図る。〕

嘉麻市教育アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想、各学校学力向上プランの関連を明確にし、具体策を全ての学級に浸透させる。

短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を行うとともに、各学校における効果的な実践の普及に努める。

高校入試問題等の定期考査への取り入れと生徒による授業評価を確実にを行い、その結果、日常の授業がどのように変容し「かく活動」がどのように充実したのかを年間を通して検証する。

家庭学習の個別化を推進するとともに、取組に具体的な指標をもたせ、進捗状況を把握し支援を行う。

主幹教諭研修会を小中別分科会とし、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。